

被災地での子供向けイベント 実施事例

令和7年3月



子供を大切にする
東京を、育てよう。

はじめに

こどもスマイルムーブメントの一環として、石川県輪島市にて、令和7年1月に「パラスポーツを楽しもう!」、2月に「デジタル遊びを楽しもう!」と題して、子供の「遊び」に関するイベントを開催しました。

「こどもの居場所づくりに関する指針」（令和5年12月22日閣議決定）では、「災害時において子供の居場所や遊びの機会等が確保されるよう配慮することは、子供の心の回復の観点からも重要である。」とされています。

このため、輪島市での「遊び」の機会の創出を通じて、被災した子供の心の負担軽減を図ると同時に、都の防災力向上を図ることを目的として、事前に現地の子供たちの声を聞き取り、イベントを企画・開催しました。今後の災害発生の可能性に備えて、これらの取組を参考にいただければ幸いです。

事例1 【パラスポーツを楽しもう!】

イベント概要

- 名称 パラスポーツを楽しもう!
輪島市こどもスマイルポッチャカップ
- 主催 東京都 こどもスマイルムーブメント
[協力事業者：株式会社プラミン
(日本ポッチャ協会)]
- 開催日時 令和7年1月26日(日) 10:00~15:30
(受付 9:45~)
- 開催場所 輪島市児童センター 2階体育館
(ふれあい健康センター内)
- 内容
 - ・輪島市こどもスマイルポッチャカップ
(対象：小学生を含む3~4名グループ)
※優勝チームは、BOCCIA JAPAN CUP 2025 本大会へ特別招待
 - ・パラリンピック金メダリストによるトークショー
【ゲスト：鈴木 孝幸 選手（水泳）】
 - ・ポッチャ体験コーナー（年齢制限なし）
 - ・東京都こどもホームページ体験コーナー（年齢制限なし）

The poster is for an event titled "パラスポーツを楽しもう!" (Parasports Enjoyment!). It is scheduled for January 26, 2025, from 10:00 to 15:30 at the Ishikawa Children's Center 2nd Floor Gymnasium (located inside the Fureai Health Center). The main program is the "輪島市こどもスマイルポッチャカップ" (Ishikawa Children's Smile Boccha Cup), which is free of charge. The target audience is groups of 3-4 people including elementary school students, with a maximum of 1 person per team. There are 9 teams (27-36 people) in total. The winning team will receive a special invitation to the BOCCIA JAPAN CUP 2025. There is also a Boccha experience corner. A Paralympic medalist, Shigeaki Suzuki (Swimming), will give a talk show. The talk show time is 13:10-13:40. The poster also includes contact information for the event organizers and a QR code for registration.

実施内容- ①

輪島市こどもスマイルボッチャカップ

友達同士や家族などのチーム対抗でボッチャ大会を開催しました。初めて体験する方も参加できるように、ルール説明やデモンストレーションを行い、練習時間も取って、競技性よりも楽しさを重視した内容としました。ゲストの鈴木選手もチームに入って試合に参加されました。

競技進行に関しては、日本ボッチャ協会の審判部及び石川県ボッチャ協会の普及審判員の方にご協力いただきました。参加したほとんどの方がボッチャは初体験でしたが、体を動かす機会が少なくなっていた子供たちだけでなく、大人も一緒に楽しく真剣に取り組む、大変盛り上がりました。

参加チーム/人数

9組 30名

形式

予選：リーグ形式

決勝：トーナメント形式（1位から4位までを表彰）



実施内容- ②

パラリンピック金メダリスト トークショー

パラリンピック金メダリストによるトークショーを開催しました。子供だけでなく、幅広い年齢層の方の来場もあり、普段聞くことができないような貴重なお話に聞き入っておられました。また、パラリンピックで獲得されたメダルもご持参いただき、子供たちも実際に手に取り、写真を撮る姿も見られました。

ゲストプロフィール

鈴木 孝幸（すずき たかゆき）選手 （パラ水泳）



- ・静岡県浜松市出身 / 38歳
- ・6歳で水泳を始め、高校入学後、本格的に競泳に取り組む
- ・高校3年生のときに、初めてパラリンピックに出場
- ・その後、6大会連続でパラリンピックに出場中
- ・昨年夏のパリ2024パラリンピックでも、50m平泳ぎでの金メダルはじめ、計4個のメダル獲得
- ・パラリンピックで獲得した通算メダル数14個

※2025年1月26日時点



実施内容：その他

ボッチャ体験コーナー

ボッチャ大会に参加しない方や未就学の子供たちも自由にパラスポーツを楽しめるよう、「ボッチャ体験コーナー」を設置しました。運営スタッフから、ルール説明や競技の進め方のサポートを行い、初めての方も気軽に楽しんでおられました。



協力事業者の声（株式会社プラミン担当者様より）

被災地での小学生向けの大会開催は初めての経験でしたが、参加してくれた子供たちは大きな声を出して、チームでコミュニケーションをとり、笑顔でプレーしてくれていたのが印象的でした。時間ぎりぎりまで練習に打ち込んだり、ボッチャ協会のスタッフへの質問も多く、初めて体験することがほとんどの子供たちとは思えないほどの熱量を感じました。その結果、大会自体の盛り上がりにつながったと感じています。

イベント後も、子供を含めて地域で継続してボッチャを楽しんでいただければと考え、ボールを寄贈させていただきました。健康的な身体を作るために体を動かすことは大切です。ボッチャは、スペースさえあればボールも手作りで実施できる、避難所などでも気軽にできるスポーツです。

ボッチャは、こども食堂、児童館、放課後クラブなどでも広く取り入れられており、スポーツには人が集まるコミュニティを創る力があります。
子供たちに健やかな場所を一緒につくっていきましょう！

参加者の声（抜粋）



震災で離ればなれになった友達と一緒に参加できて良かった



体を動かせて良かった！



初めてのことにどんどん挑戦して欲しい



作戦を立てながらやって、勝って嬉しかった



親子で一緒に楽しめるのはうれしい



子供の興味・関心に気づくことができた

事例2 【デジタル遊びを楽しもう！】

イベント概要

- 名称 デジタル遊びを楽しもう！ in 輪島市
- 主催 東京都 こどもスマイルムーブメント
[協力事業者：メディアフロント・ジャパン株式会社]
- 開催日時 令和7年2月9日(日) 10:30～16:00
(受付 10:15～)
- 開催場所 輪島市児童センター 2階体育館
(ふれあい健康センター内)
- 内容
 - ・プログラミングでドローン飛行体験 (対象:小学校3年生～高校生等)
 - ・VRサファリ (対象:4歳以上)
 - ・デジタルお絵描き (年齢制限なし)
 - ・東京都こどもホームページ体験コーナー (年齢制限なし)



実施内容- ①

プログラミングでドローン飛行体験

プログラミングを活用したドローンの自動飛行を体験する教室を開催しました。子供たちはドローンの仕組みについての講義を聴き、手動での操作を体験後、実際にプログラミングをして自動飛行に挑戦しました。参加したほとんどの子供たちがドローン初体験でしたが、夢中になって操作を楽しんでいました。

教室運営に関しては、数々のドローンショーを開催している株式会社レッドクリフ様にご協力をいただきました。



ドローンカメラで撮影



ドローンカメラで撮影

実施内容- ②

VRサファリ

普段は見るできないジャングルやサバンナの動物たちを、VRゴーグルを使って360° 間近で見られるプログラムを実施しました。5種類のチャンネルを用意したことで、何度も映像を視聴する方も多く、終日盛況でした。

大人も子供も楽しめる内容で、小さな子供たちも参加できるため、親子での参加も多く見られました。参加者はゴーグルをつけて周辺を見たり、手探りするなど、初めてのバーチャル体験を全身で楽しんでいました。



実施内容- ③

デジタルお絵描き

自分で描いた絵がモニターで動き出す、小さな子供たちも体験できるプログラムを実施しました。子供たちは白紙に自由に絵を描いたり、「ぬり絵」に色付けしたりしたあと、モニター前で待ち構えていて、自分が描いた絵がモニターに登場すると、歓声を上げて喜んでいました。塗り絵のパターンが複数用意されていたこともあり、デザインや色を工夫して、何度も挑戦する様子も見られました。



実施内容：その他

東京都子どもホームページ 体験コーナー

1月、2月のイベントの両方で、パソコンとタブレットで「東京都子どもホームページ」を体験できるコーナーを設置しました。

小学校高学年の子供たちは友達同士でタイピングレースを楽しみ、小学校低学年の子供たちはすごろくやクイズを楽しんでいました。小さな子供たちも親子で取り組んでおり、多くの方が様々なコンテンツを体験されました。

他コーナーの合間に繰り返し挑戦している子供や、2月の回では前回体験した子供たちがリピーターとなって楽しむ様子が見られました。

また、2月の回では「東京子どもタイピングレース」のコンテンツに出題するワードを子供たちから募集し、輪島市の魅力にまつわるたくさんのアイデアが出されました。



協力事業者の声 (メディアフロント・ジャパン株式会社 担当者様より)

東日本大震災の際も子供たちに遊びを提供するイベントに携り、今回もその時も参加する子供たちの目がきらきらと輝いていたことが印象に残っています。

また、今回のイベントでは保護者の方々も一緒にご参加いただき、大人の方にも日常と違う体験を提供できたと思います。

会場では子供たちが明るく接してくれたため気づきませんでしたでしたが、帰路に街並みを見たときに、倒壊した建物が何軒もそのまま残っていて非常にショックを受けました。このような状況で過ごしている子供たちにとって、メンタル面のケアはとても重要だと思います。このため、一度限りではなく、継続的な関係構築ができると良いと思います。

子供の心は周囲の環境や大人の言動、表情に対してとても敏感なので、大人も子供もリフレッシュできる機会を提供することが必要ではないかと考えます。また、子供たちの言葉に耳を傾け、気持ちを吐き出し、安心できる場所を整えることも重要だと思います。

企業・団体それぞれの方が力になれる分野で少しずつ協力し合い、子供たちの笑顔を守っていけたらと思います。

主な参加者の声



たくさんの遊び
が体験できて
楽しかった



思い通りに
ドローンが飛ばせて
楽しかった



普段できない
体験ができ、
子供がイキイキ
としていた



ドローンの構造が
理解でき、社会に
役に立つイメージ
がわいた



小さい子供でも、
塗り絵やVR体験で
楽しそうにしていた



学校で教わらないこと
を専門家に教えてもら
い、興味・関心を持つ
良い機会になった

イベント事務局 あとがき

被災後1年が経過した石川県輪島市で、本年1月、2月に「子供への遊びの提供」にかかるイベントを開催し、一番感じたことは、まだまだ復興の途上であって、学校や公園に避難所や仮設住宅があるなど、子供たちが遊べる場所が限られている、ということです。

今まで当たり前であったことが当たり前できない状況というのは、子供たちが成長していく上で必要となる「体を動かすこと」や「友達と一緒に遊ぶ」ということすらも制限されている状況だと改めて感じました。

また、一緒に参加された保護者の方々からは、「子供の興味・関心に気づくことができ良かった」「今の輪島市は遊ぶ場所があまりないので、このような機会があって良かった」「普段なかなか聞けない話を聞くことができ、良い経験をさせることができた」「いろいろな方の協力で今日のような体験ができて良かったね、と子供に伝えたい」など、多くの声をいただきました。

こうした点により、子供にとっての遊びは、生きる活力であり、大切な居場所でもあると再認識できました。また、保護者の方にとっても、子供の遊びの場は子供の自然な表情や心理面を感じ取れる大事な場面であり、保護者同士の会話や子供との会話を通じて、親子にとっても大切な場所になっていると感じました。

東京都においても、首都直下地震等の発生に備え、平常時から子供の遊びの機会を提供するノウハウを蓄積し、被災した際にも、子供の笑顔につながる取組を行う準備を進めることが重要だと考えます。本実施事例が少しでも皆様のご参考になれば幸いです。

最後に、本イベント実施にあたって多大なご協力をいただいた石川県輪島市児童支援センターの職員の皆様、プログラム協力いただきました企業・団体の皆様、関係者の皆様に改めまして深く感謝を申し上げます。

問い合わせ先

東京都 こどもスマイルムーブメント事務局

MAIL jimukyoku@kodomosmile.metro.tokyo.lg.jp

TEL 03-5213-0815 受付時間：10:00~17:00（※土日休日を除く）